

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

平成 24 年度

海上保安協力員の活動推進事業

海上保安協力員連絡会議報告書

平成 25 年 3 月

財団法人海上保安協会

本報告書は、平成 24 度に当協会が日本財団助成事業として実施した「海上保安協力員の活動推進」事業のうち、全国各地の当協会支部が管区海上保安本部及び海上保安部署のご指導・ご協力を得て開催した「海上保安協力員連絡会議」の各報告書から、開催日時・場所・出席者・議題等会議の概要が判明できる資料を抜粋して取り纏めたもの（会議資料及び会議開催写真の一例を添付）です。

海上保安協力員連絡会議は、次ぎのとおり全国の 71 地区で開催し、各海上保安協会支部職員の他、452 名の海上保安協力員、452 名の海上保安部署職員（管区本部職員を含む。）の参加を得て、海上保安協力員制度概要、各支部の海洋環境保全・海上防犯等の海上保安の現況の説明、情報提供についての依頼、海上保安協力員の活動推進に係る意見交換等を実施しました。

2

（開催日時順に掲載、横の数字は掲載頁を示す。）

・横浜	・沖縄（那覇地区）	・中城	・紋別	・仙崎	・広島
・下関	・三河	・四日市	・門司	・厳原	・苦小牧
・鹿島	・宇和島	・千葉	・東京	・宇部	・福山
・岩国	・日向	・比田勝	・川崎	・宮古	・宮崎
・名古屋	・鳥羽	・唐津	・香川	・今治	・木更津
・苅田	・敦賀	・玉野	・横須賀	・土佐清水	・新居浜
・田辺	・呉	・三池	・徳山	・長崎	・茨城
・尾道	・気仙沼	・水島	・佐世保	・大阪	・洞海
・佐渡	・奄美瀬戸内	・青森	・金沢	・柳井	・福岡
・神戸	・壱岐	・香川坂出	・東播磨	・室蘭	・新潟
・上越	・浦河			・御前崎	・串本

海上保安協力員連絡会議資料（例）

（海上保安協会 沖縄地方本部）



平成24年度運営会議 海上保安協力員

海上保安協力員制度実施全般環境保全への熱心等につけて

(財)海上保安協会 沖縄地方本部
第一管区海上保安本部 環境防災課



海守



日本財團
The Nippon Foundation



「海上保安協力員の活動推進事業」の概要

これまで日本財團の助成事業と「海上防犯の推進」事業を統合し、「海
洋環境保全事業」と「海上保安協力員の活動推進」事業の活動を推進
してきましたが、平成21年度から新たに「海上保安官連絡所」を発足して3年目

海上保安官連絡所

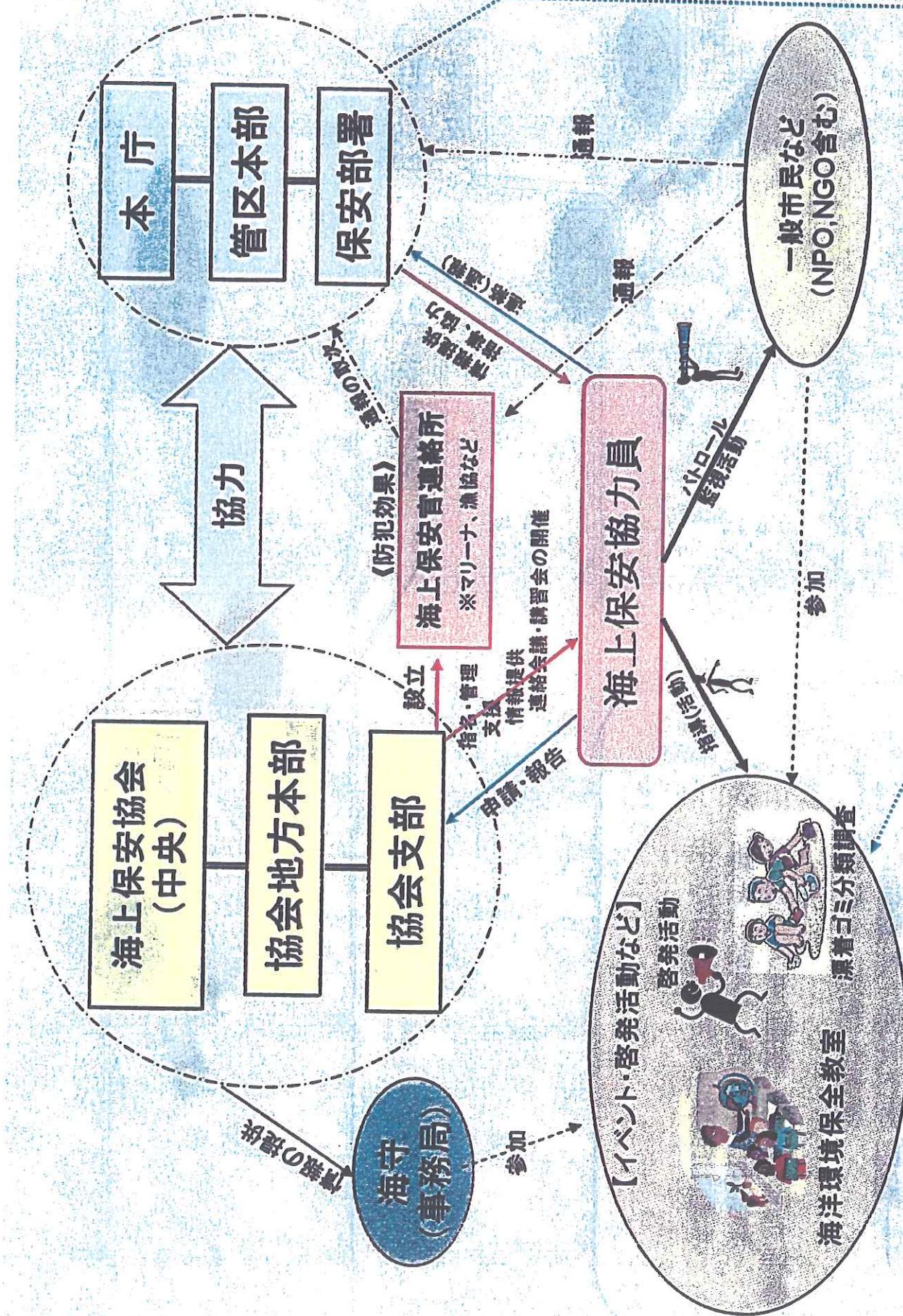
海上保安協力員の活動推進

(海上防犯の推進)
海上防犯事業

(海洋環境保全の推進)
海洋環境保全事業

海上保安協力員の活動推進事業の概要

人材の確保(発掘)

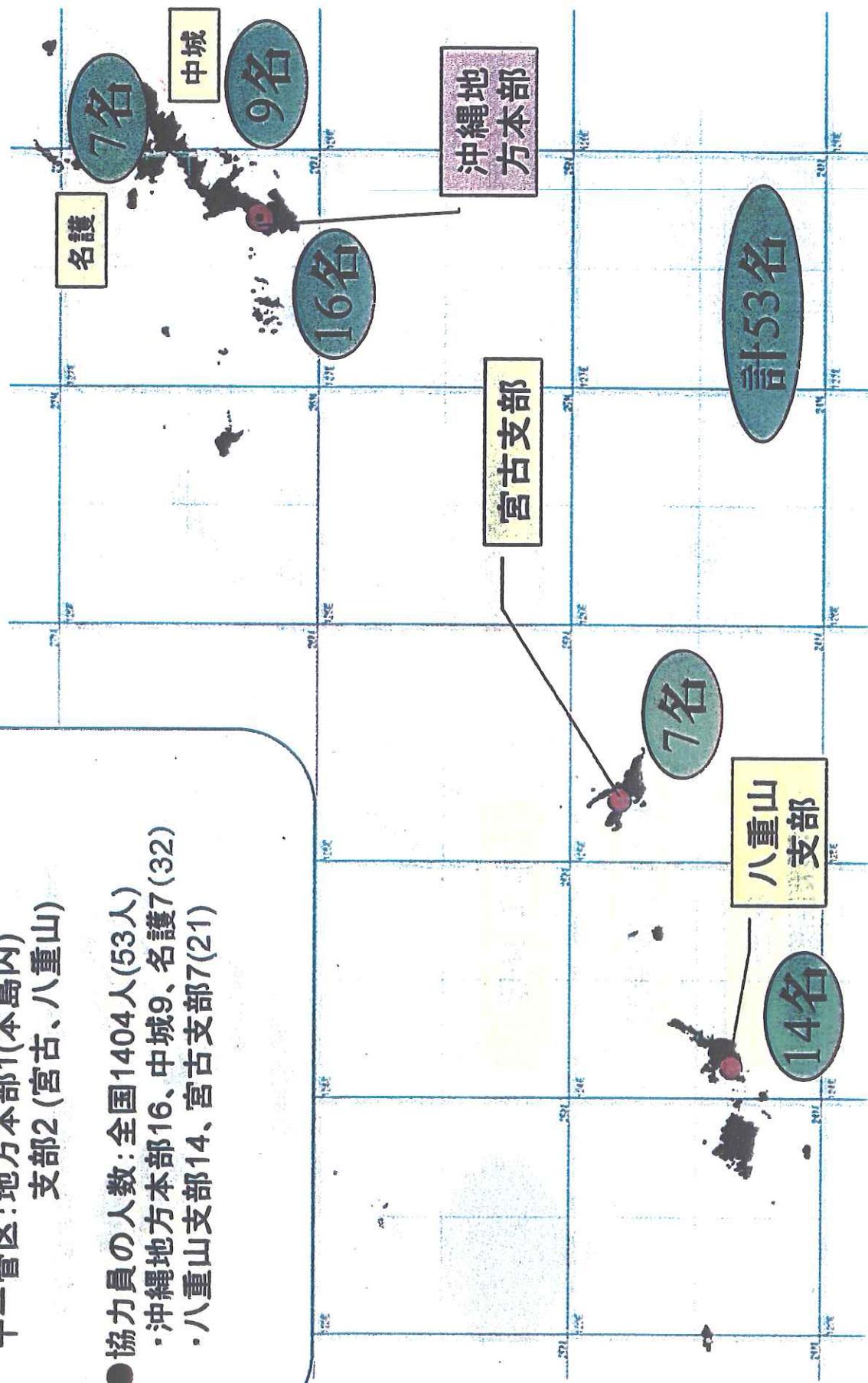


協力員の配置等

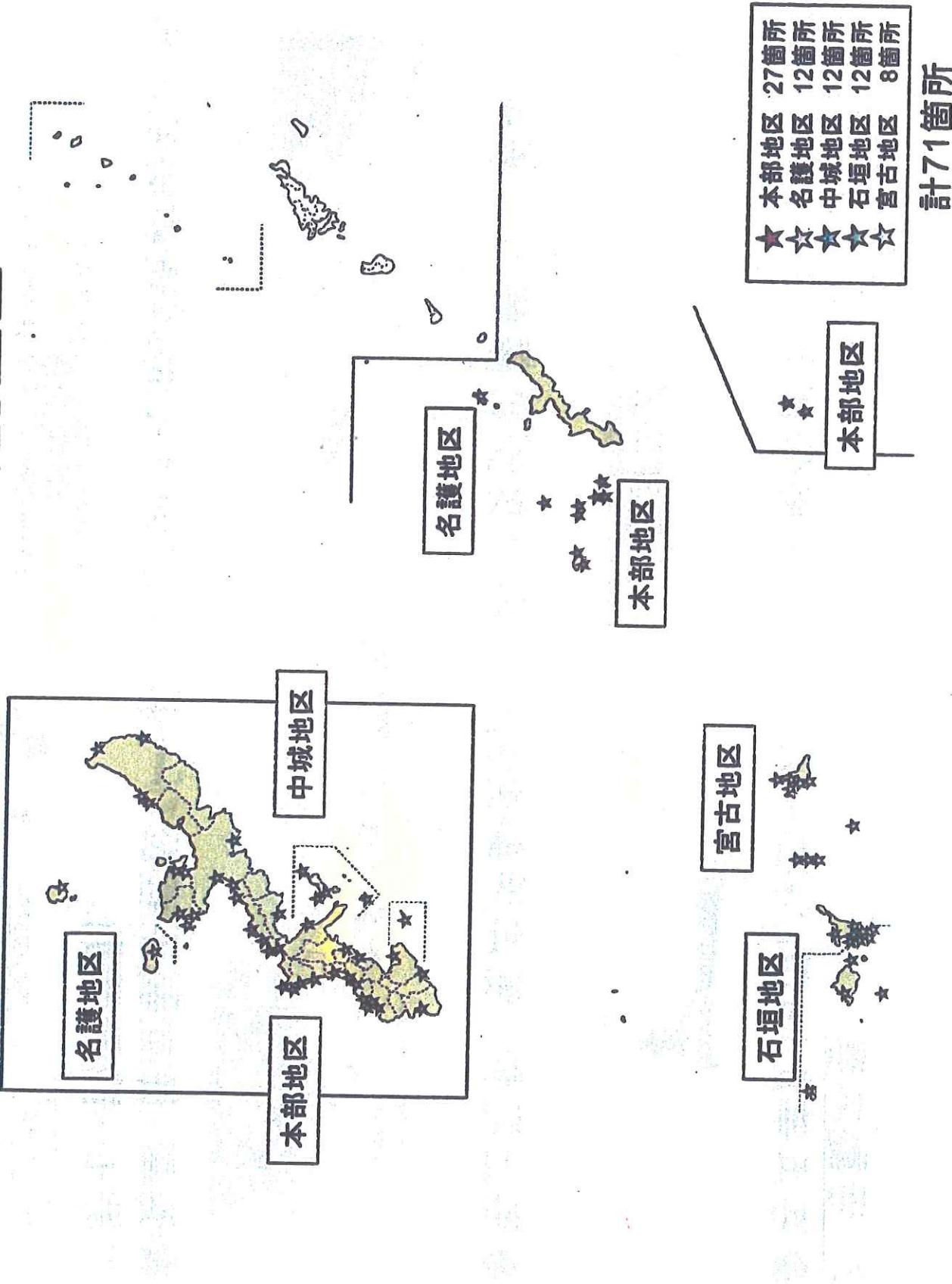
- 海上保安協会支部：全国109支部
- 海上保安協会地方本部：11部
- 十一管区：地方本部1(本島内)
支部2(宮古、八重山)

- 協力員の人数：全国1404人(53人)
・沖縄地方本部16、中城9、名護7(32)
・八重山支部14、宮古支部7(21)

海上保安協力員等の状況



海上保安官連絡所配置図



3. 活動内容

● 海浜等の防犯パトロール、マリーナ等の巡回



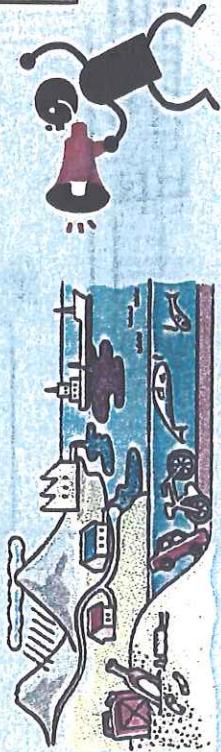
パトロール・監視活動

● 海上犯罪、海洋汚染発見時の海上保安部署等への通報



通報

● 海事・漁業関係者及び一般市民に対する海洋環境保全の思想、周知・啓発活動。

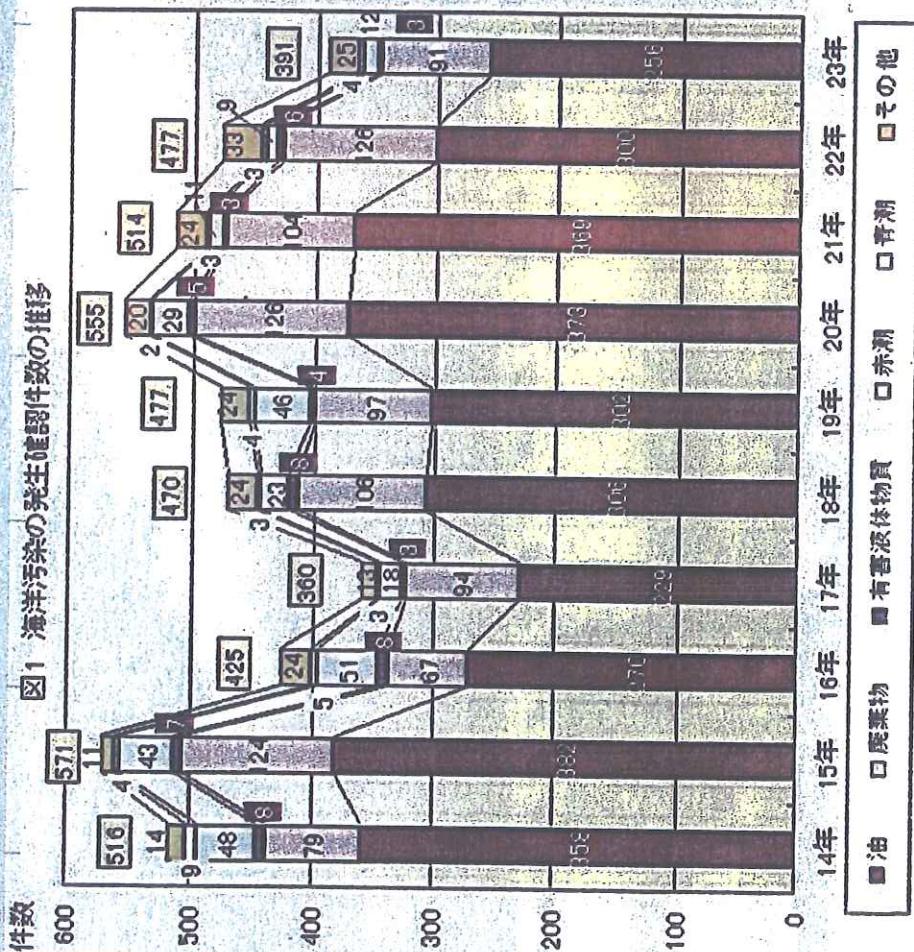


啓発活動

過去10年間の海洋汚染発生確認件数の推移

	油	廃棄物	有害液体物質	赤潮	青潮	その他	合計
14年	358	79	8	48	9	14	516
15年	382	124	7	43	4	11	571
16年	270	67	8	51	5	24	425
17年	229	94	3	18	3	13	360
18年	306	106	6	23	3	24	470
19年	302	97	4	46	4	24	477
20年	373	126	5	29	2	20	555
21年	369	104	3	11	3	24	514
22年	300	126	6	9	3	33	477
23年	256	91	3	12	4	25	391

図1 海洋汚染の発生確認件数の推移



全体の発生件数(全国)

平成22年 477件(177)

平成23年 391件(135)

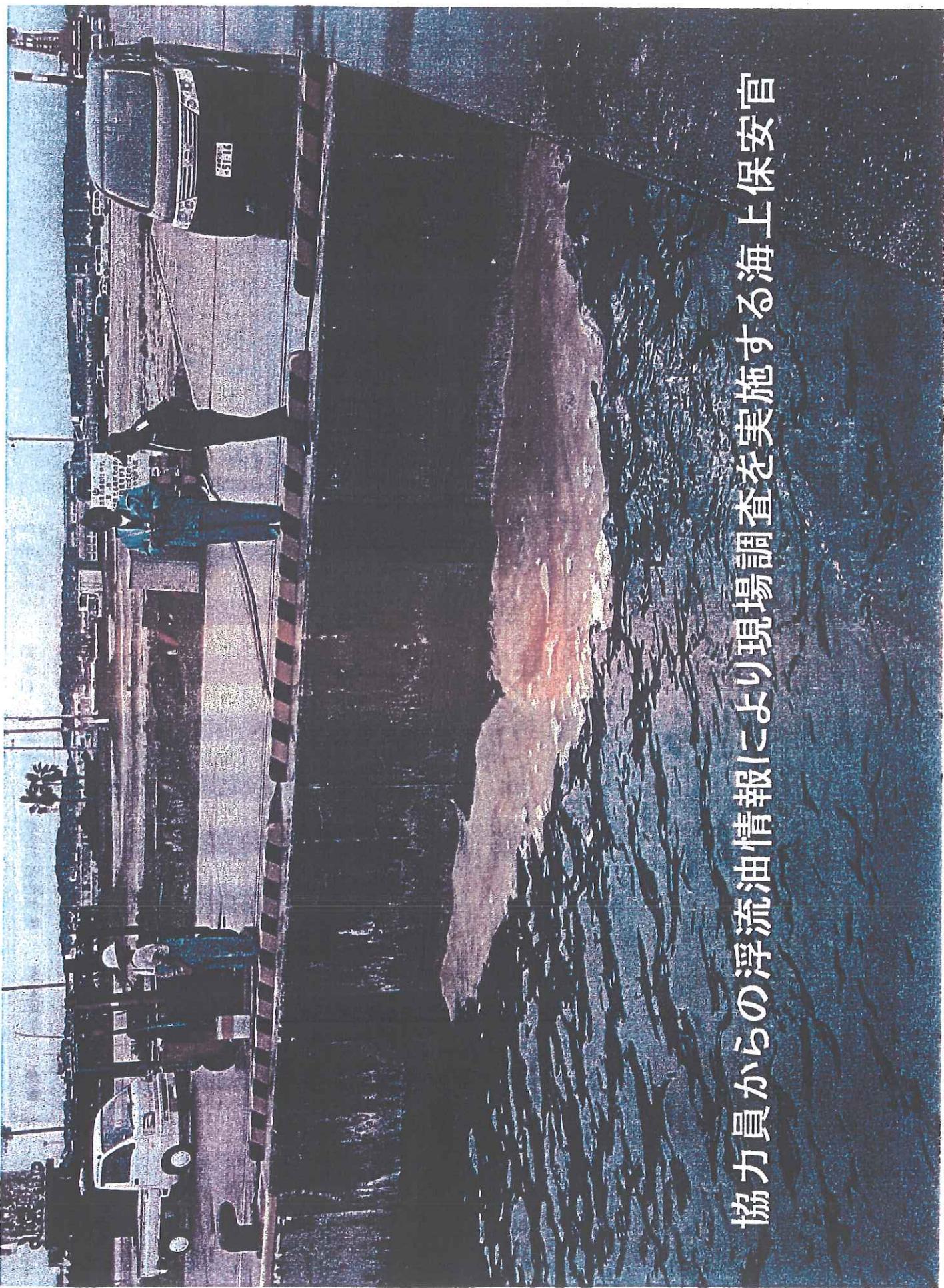
第十一管区における発生件数

平成22年 21件(油以外2件)

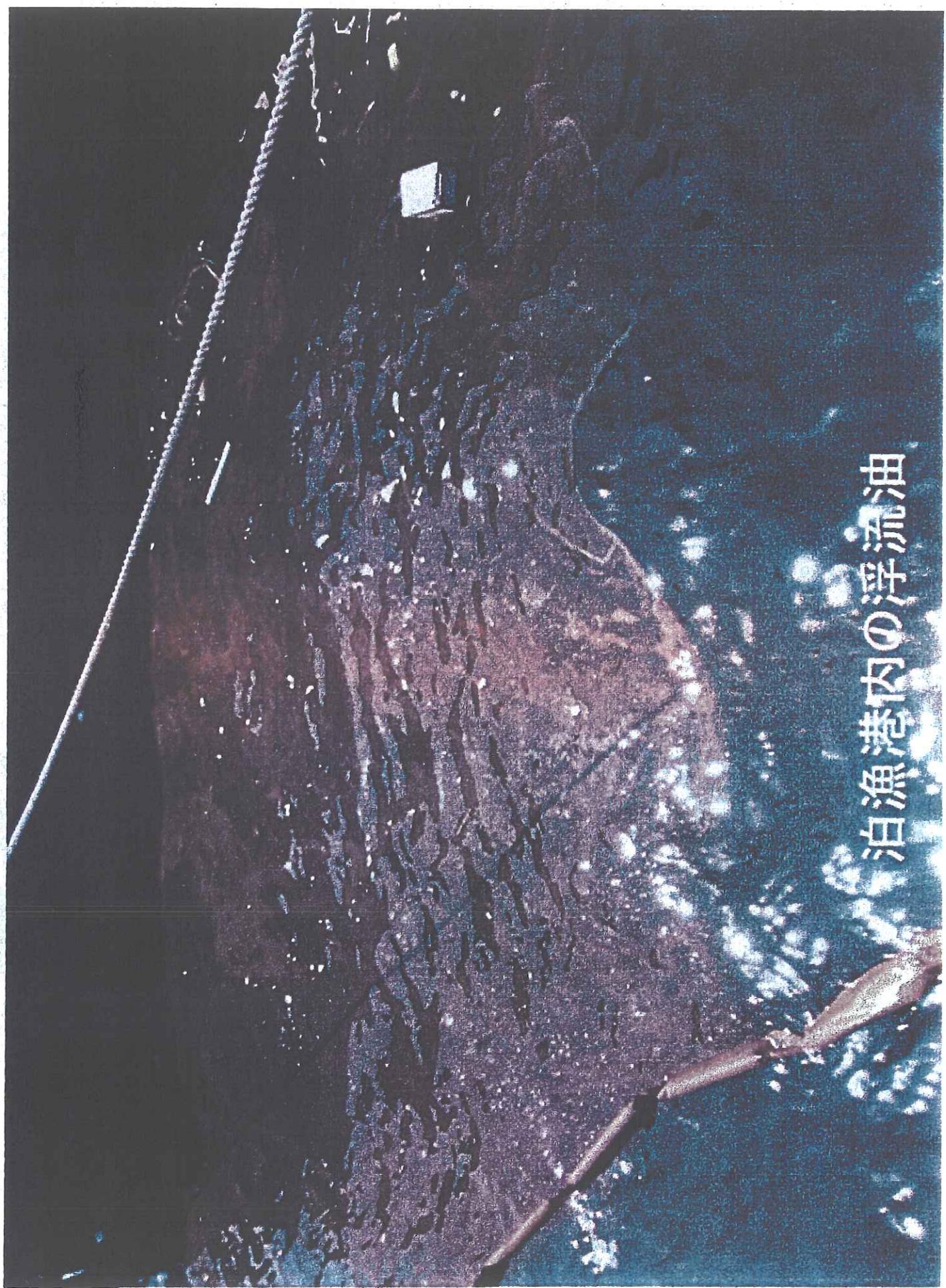
平成23年 20件(油以外3件)

■油 □廃棄物 ■有害液体物質 □赤潮 □青潮 □その他

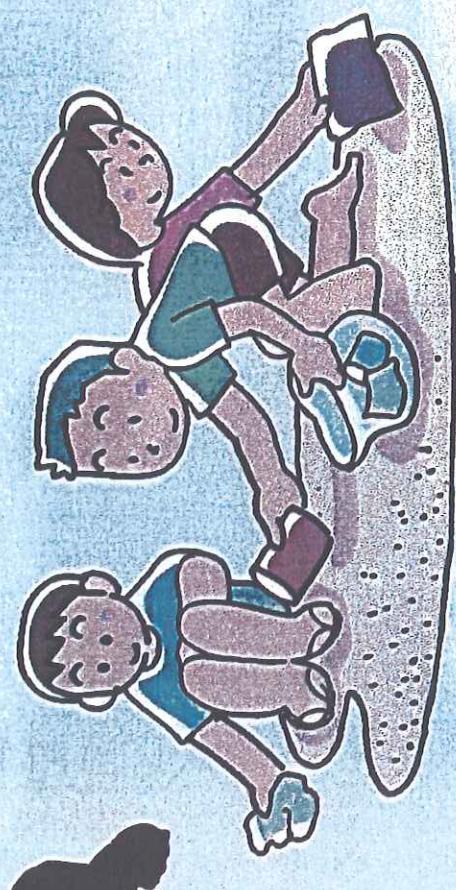
協力員からの浮流油情報により現場調査を実施する海上保安官



油流浮内港漁泊

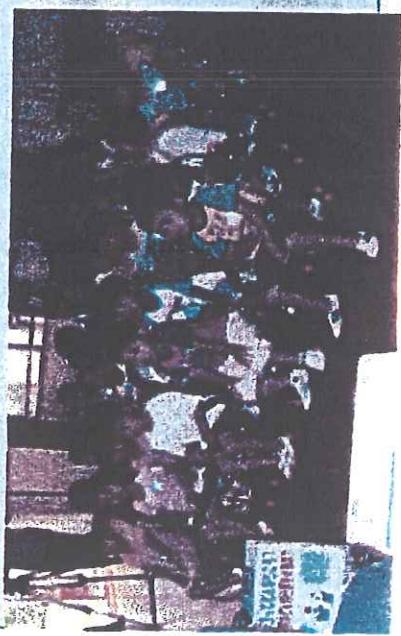
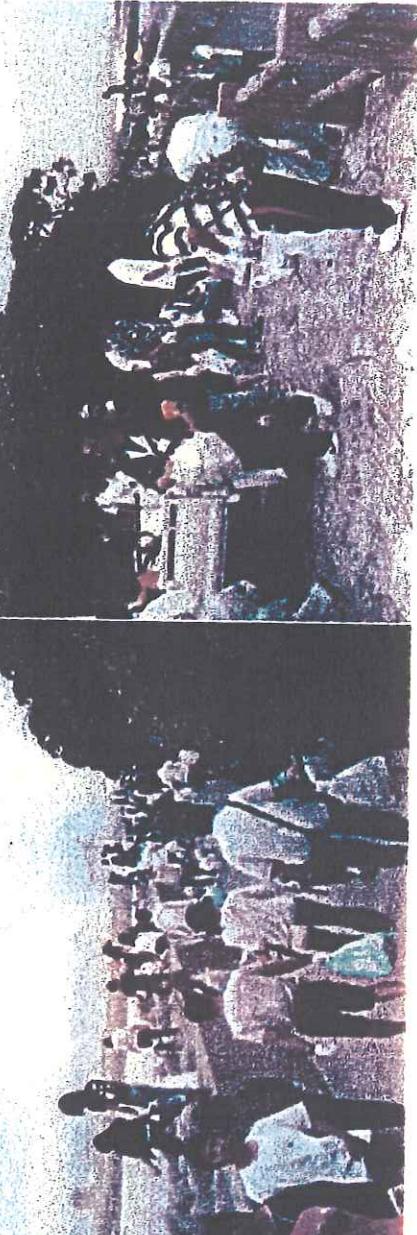


●海岸・港湾等の清掃活動及び漂着ごみ分類調査
その他、自治体等が主催するイベント・清掃活動等にも参加する。



環境教室

海浜清掃



第十一管区海上保安本部における海洋環境保全の取組み

近年、外国由来のものを含む漂流・漂着ゴミによる問題が深刻化

平成18年4月に関係省庁会議を設置

- 状況の把握
- 国際的な対応も含めた発生源対策
- 被害が著しい地域への対策
- ～「関係省庁が連携して取り組むことが不可欠」～
- 平成21年海岸漂着物処理推進法施行

第十一管区海上保安本部の取組み

沖縄クリーンコーストネットワーク

(平成14年7月設立)

情報の提供、海洋環境保全思想の推進



八重山環境ネットワーク

(平成14年3月設立)

八重山諸島の環境問題に対する取り組み

(環境紙芝居)にかかる本部長表彰式

環境防災課



日 時：平成23年8月24日1600～1700
場 所：宣野湾港マリーナ

被 表 彰 者：作家 真久田 正 氏、画家 山田 豊二 氏（両氏とも海上保安協力員）
表 彰 内 容：海洋環境保全推進活動への協力

作家の真久田氏及び画家の山田氏に対し、当課が企画した海洋環境保全思想の啓発・普及活動に使用する沖縄独自の児童向け紙芝居の制作について、作家、画家としての協力を依頼したところ快諾し、今般同紙芝居が完成し、表彰式を実施した。

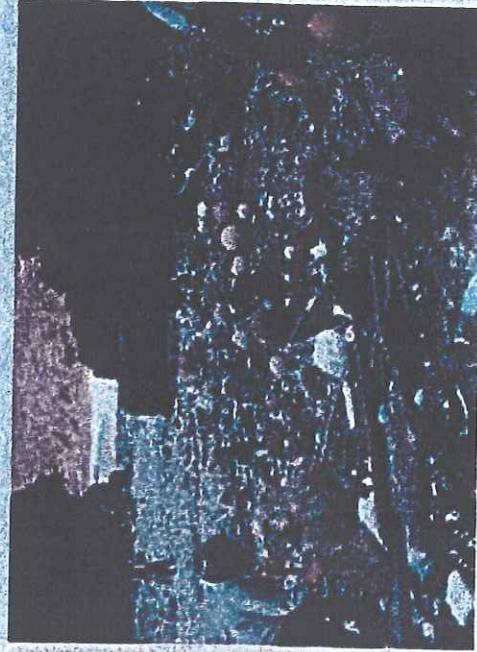
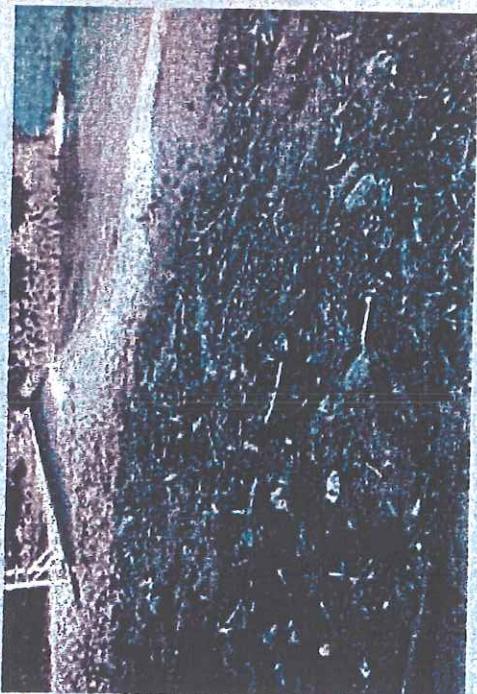
制作:第十一管区海上保安本部

作:真久田 正 絵:山田 山海

『おとぎのマリーゴールド』



漂着ゴミ及びゴミに苦しむ海洋生物の状況



1.イルカの事けん



全般写真：国営沖縄記念公園水族館

平成9年10月、沖縄はおきなわ水族の男爵鯨港(なにはこう)に、それが
おられた一隻のイルカがまよいこんでござました。このイルカはわざりもつてしましました。
連らくを愛りナガシオガ美食館の飼育係(じくよ)園たちば、すぐ!ごかすつ
ナ、元気いこなるまでオホガ美食館で保護(ほご)することござました。



実際に沖縄であった事例

しわしわイルカは回ふくしません。元気を取りもどす!こは、たくさん食べるので、一番ですが、この
イルカは一口もえさを口にしなかったのです。保護されて二日後、イルカは、電を引き取りました。
死んだ!イルカの体重は、健脚なイルカの半分!ここまでへ
り、やせ細っていました。

イルカがえさを食べなかった原因をついたとめようと、水が気食
では角質(かくしつ)でござりました。胃の中には、たくさんごみがつきました。
イルカは、えさをかます!これ飲みする習性(しづ)うせいのがあります。
死んだ!イルカは、大きなごみを丸ごと飲んでいたために、消化できな
いまま腫(こ)づまし、えさを食べられなくなつたのです。

イルカの腫



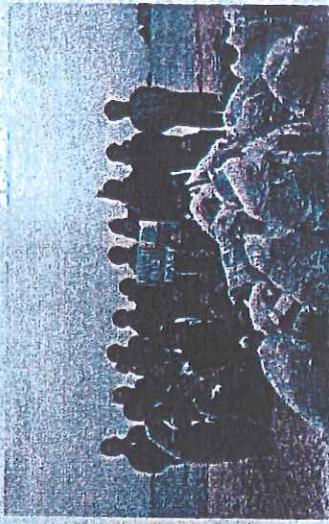
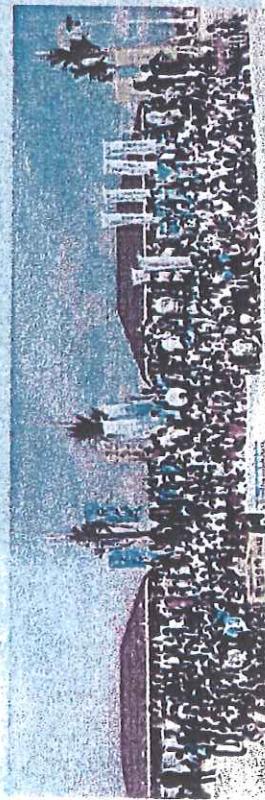
沖縄クリーンコーストネットワーク(OCCN)

1 概要

海、海岸等沖縄の自然環境を守るために活動をより効果的に推進する目的で、当本部主導の下、沖縄総合事務局、環境省、沖縄県の4機関が提唱し、平成14年7月に結成(当本部環境防災課が事務局)。結成当時は106団体であったが、平成24年4月1日現在、292団体(個人を含む)となつた。

2 主な活動状況

「まるごと沖縄クリーンビーチ2011」期間中(平成23年6月1日～7月31日)の状況
参加人数: 10,548名、清掃箇所: 66ヶ所、ゴミ回収量: 74トン
(* 年間計: 約1万3千800人、103ヶ所、87.6トン)

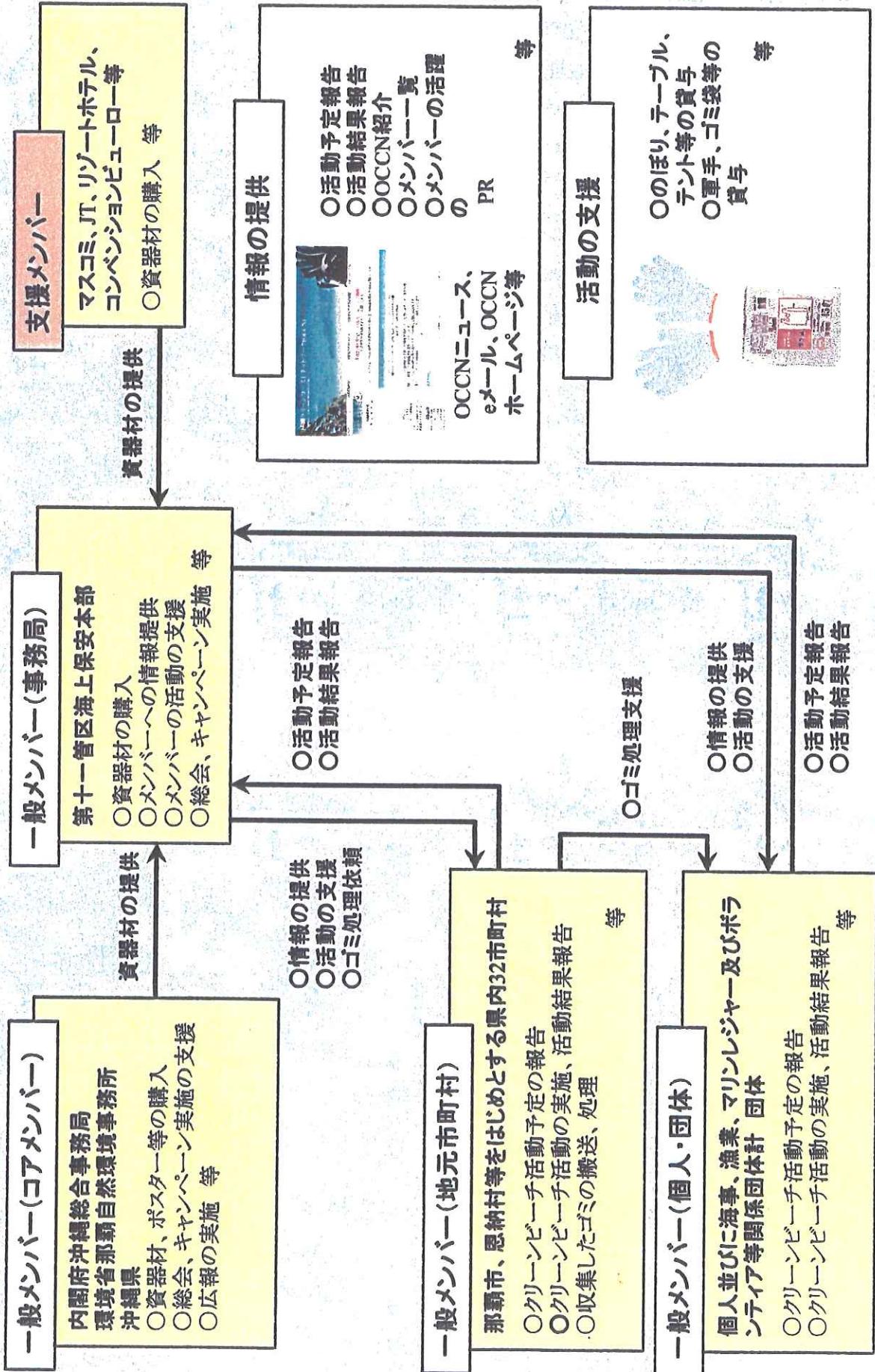


6/4「まるごと沖縄クリーンビーチ2011」オープニングセレモニー及び清掃活動
於: 豊見城市美らSUNビーチ

「恩納村海をきれいに! 実行委員会」
於: 恩納村海岸



沖縄クリーンコーストネットワーク(OCCN)



海上保安協力員連絡会議開催写真（例）

(海上保安協会 横浜支部)
(海上保安協会 東京支部)

平成 24 年度海上保安協力員連絡会議（海上保安協会横浜支部）

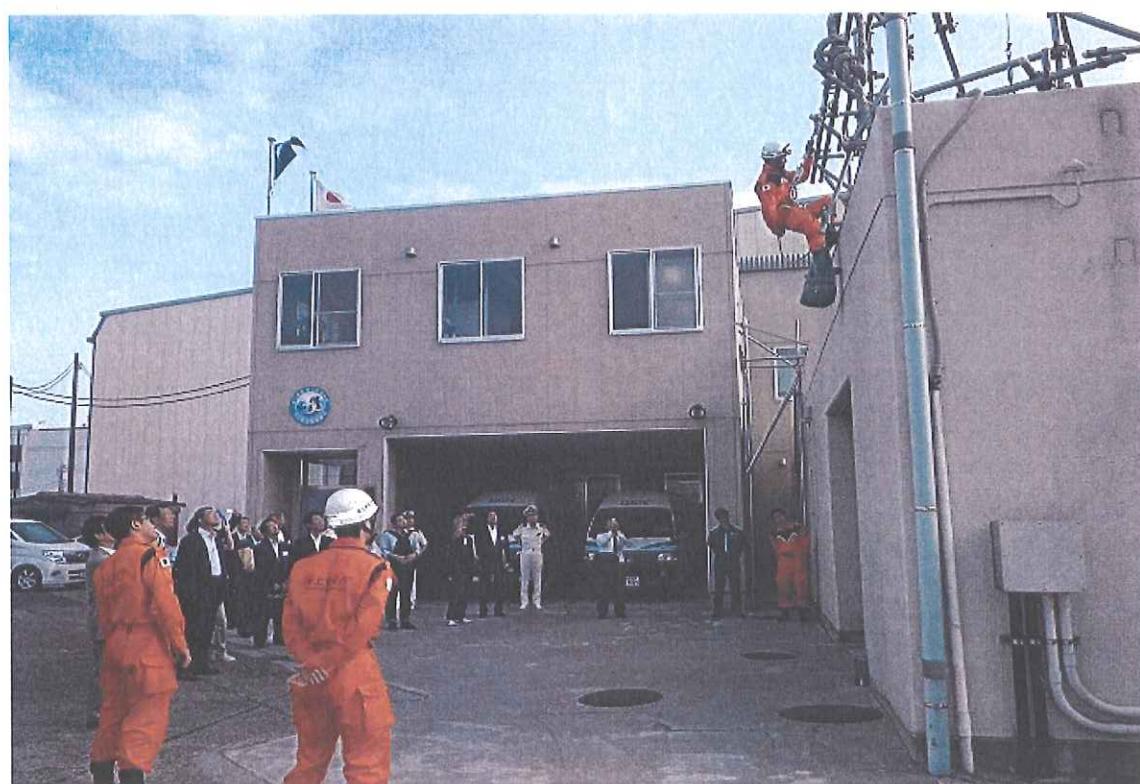


横浜海上保安部　巡視船「はまぐも」体験航海（4月20日）

平成24年度海上保安協力員連絡会議（海上保安協会東京支部）6月18日



羽田航空基地所属 ボンバルディアDHC-8-315型 愛称みずなぎ 体験飛行



特殊救難隊基地見学